

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（令和2年度）

法人名	社会福祉法人 北栄町社会福祉協議会	代表者	大西孝弘	法人・ 事業所 の特徴	利用者の一人一人の能力を最大限に活かせるように、日々利用者の方とコミュニケーションをとり、職員のミーティングで情報を共有しながら支援している。ひとつの家族だと考え、利用者と職員が互いに助け合うことで、思いやりの心が芽生え落ち着いた場所になってきている。「地域の利用者の方を地域の人で」を基本に支援している。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 「なごみの郷」	管理者	脇坂啓子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	4人	人	1人	人	人	3人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・今後も定期的なミーティングや記録ノートの活用で職員全員が一人ひとりの利用者について、共通の理解と支援ができるようにする。	・職員全員にファイルを作成し、定例会の資料や利用者の情報を綴っている。利用者情報については、各自上書きしている。（個人情報については持ち出ししていない。）	・数字に偏りがあるのは仕方がない。 ・自己評価をしても、評価表がどのようなものか職員がわかっているのか。 ・全部を実現することは難しいものだと思う。何か1つ、この目標と決めてよいのではないか。	・外部評価について、課題としてあがったことについて話し合い定例会等で検討していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	・職員全員の声を聞きながら、施設の看板設置を工夫する。	・未実施。	・外見も大切である。業者委託を考える。	・来年度、看板製作を予算化してもらう。
C. 事業所と地域のかかわり	・自治会長に加えて地域のPTA保護者にも声かけをして、児童や生徒が夏休みに来訪したり、小、中学生がボランティアで活動できる場の提供となるよう取り組む。	・新型コロナウイルスの影響で、ボランティアの受け入れが中止となった。	・自分で、いきいきサロンに行かれています利用者はどうだったか、感想を聞いてあげてはどうですか。	・現在、この状況下で難しいため、他の方法で可能な交流方法を検討する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・利用者の知りえた情報やプライバシーに配慮しながら、自治会長や民生児童委員と連携を密にとっていく。	・新型コロナウイルスの影響で、外出することに制限があったため、施設内での行事となってしまった。 ・利用者によっては、民生児童委員、愛の輪協力員と連携が密にとれた。	・地域住民にどういうふうに話しかけて、関わっていけばよいか、難しい。	・職員一人ひとりが、地域との関わりを意識しながら、地域に出向き関係を深める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・今後もなごみの郷の行事に、運営推進委員や家族等に、来ていただけるように、積極的に声かけしていく。 ・運営推進会議で、なごみの郷の課題や地域の課題の解決に向けて、関係者で支えていく。	・新型コロナウイルスの影響で、できなかった。 ・運営推進会議において、委員の方からの情報提供で共有を図っていく。	・利用されるまでにどのようないきさつで利用されるようになったかという経過説明がありよかった。	・運営推進会議で得た御意見は、職員間で共有し改善していく。
F. 事業所の防災・災害対策	・災害が発生した時の迅速な誘導と冷静な対応、移動場所でのサポートの仕方を学んでいく。	・今年度も、消防職員に来て頂き、AED講習を行い、突発的に起こる緊急対応について研修会を実施した。 ・防災訓練としてB&Gへ避難訓練を行った。	・避難訓練の内容はどうか。 ・地域との防災訓練はしていないのか。	・昨年同様、災害発生時の動きを想定し、迅速な誘導と冷静な対応、移動場所でのサポートの仕方を学んでいく。 ・地域の防災訓練に参加する。